

# 決算報告



平成20年度

決算は年度始まりの四月から翌年三月までの一年間に、皆さんが納めた税金を含めて、市にどれくらいの収入があり、またどのようにお金を使ったかということの数字で表したものです。今回は平成二十年年度決算についてのお知らせと平成二十年年度のまちづくりを振り返ります。

## 一般会計の全体収支

一般会計ベースでは歳入が一億二二七・一百万円、歳出が一億七億五五六万円でした。歳入から歳出を差し引いた額から、翌年度に繰り越して実施しなければならぬ事業の費用、四〇五・三万を差し引いた額を、実質収支といいます。平成二十年年度の一般会計の実質収支額は三億七六六二万円で赤字となりました。

## 一般会計の歳入は前年度比八・二%増加

平成二十年年度の歳入は前年度に比べ八・二%増となりました。主な要因としては、国庫支出金において、市が進めるまちづくり交付金事業へ

の交付金などで前年度と比べ七三・九%増と大幅に増加したことが挙げられます。

歳入は大きく分けて自主財源と依存財源があります。自主財源とは市が独自に調達できる収入のことで、市税や、繰入金、使用料や手数料などのことです。

一方、依存財源とは国や県から交付される収入のことで、地方交付税や、国・県支出金、市債などがこれに該当します。自主財源の割合が多いほど、財政に市の自主性と安定性が確保されているといえます。

市の収入で最も大きな割合を占めるのは市民税や固定資産税、軽自動車税などの市税で、五三億六一五七万円で、収入の二九・六%となっています。市税と並んで大きな割合を占めるのが地方交付税です。地方交付税は国が徴収した税の一部を、市や町が等しくまちづくりができるように、用途を限定せずに一定の割合で交付される交付金です。これは四五億一四九万円で二四・九%となっています。

歳入については、前年度から増額となつていますが、一般の景気悪化の影響から、自主財源である市税が減収になったことや、繰入金が減額となったことなどにより、自主財源の割合は三八・九%、依存財源が六一・一%となり、前年度と比べ自主

## 一般会計

項目	金額	対前年度比
歳入	181億2,271万4千円	8.2%
歳出	177億 556万1千円	7.6%
差引	4億1,715万3千円	41.4%

財源比率は六・三ポイント減少しており、市の財政状況は自主財源力が低下しているといえます。

## 特別会計決算

市には、国民健康保険事業や後期高齢者医療事業など八つの特別会計があり、公営企業会計である水道事業会計と、公営企業会計である水道事業会計と、公営企業会計が行う場合に、一般会計とは区別して経理している会計です。平成二十年年度の決算額は下記の通りで、すべての会計で赤字となりました。

一方、公営企業会計とは、使用料などの事業収入で経費をまかなう、独立採算を目的に設置している会計です。これにあたる水道事業会計の収支差引は、収益的収支で赤字、資本的収支で赤字となりました。



▲まちおこしセンター 津屋崎千軒なごみ

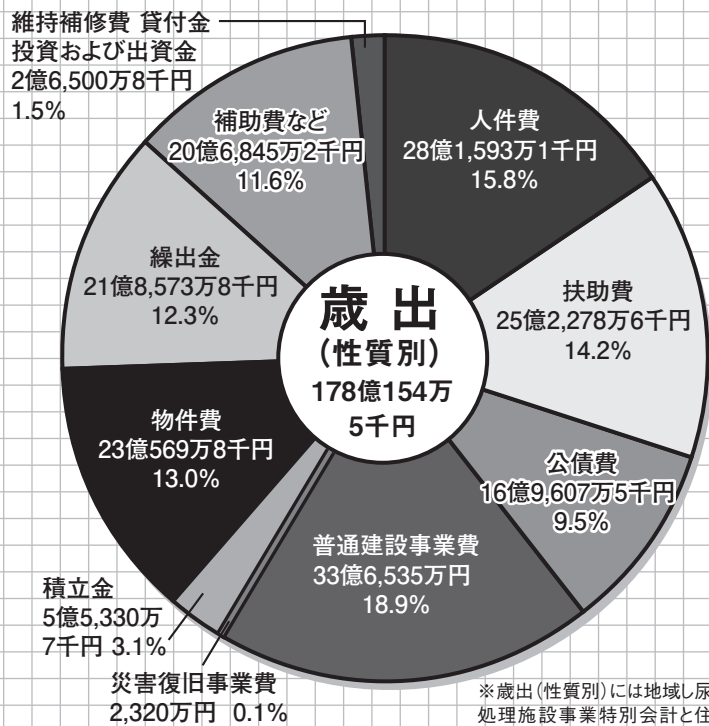
## 特別会計 決算額

区分	決算額
国民健康保険事業	歳入 56億3,336万3千円 歳出 56億2,035万3千円
老人保健	歳入 5億7,628万9千円 歳出 5億5,542万5千円
後期高齢者医療事業	歳入 6億4,092万5千円 歳出 6億3,526万4千円
介護保険事業 (保険事業勘定)	歳入 31億8,584万6千円 歳出 30億7,014万9千円
介護保険事業 (サービス事業勘定)	歳入 1,806万8千円 歳出 1,382万9千円
本木簡易水道事業	歳入 524万3千円 歳出 411万1千円
公共下水道事業	歳入 26億1,555万4千円 歳出 25億2,326万円
地域し尿処理施設事業	歳入 8,150万9千円 歳出 7,385万5千円
住宅新築資金等貸付事業	歳入 4,107万9千円 歳出 3,312万9千円

## 水道事業 会計

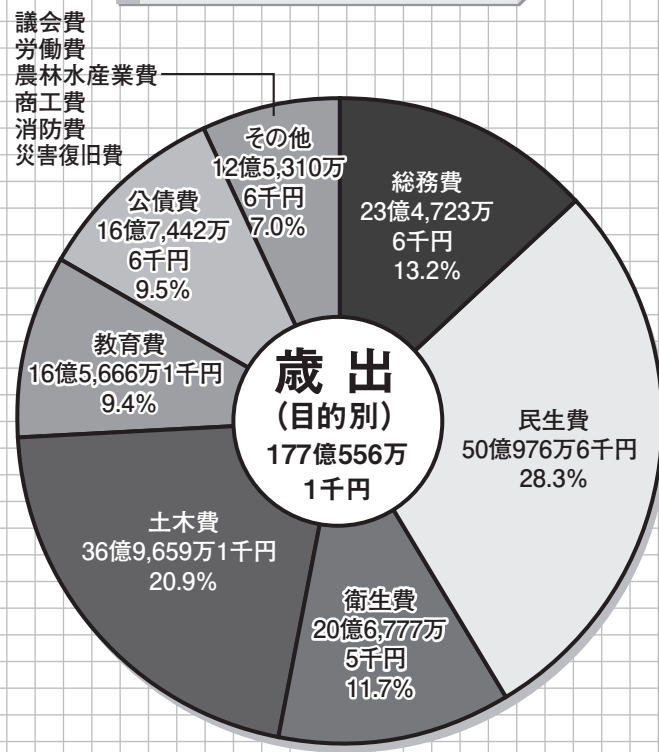
区分	決算額
収益的収入	10億8,868万5,986円
収益的支出	9億5,231万6,066円
差引	1億3,636万9,920円
資本的収入	1億2,615万7,791円
資本的支出	4億7,771万4,449円
差引	△3億5,155万6,658円

## 普通会計 歳出(性質別)

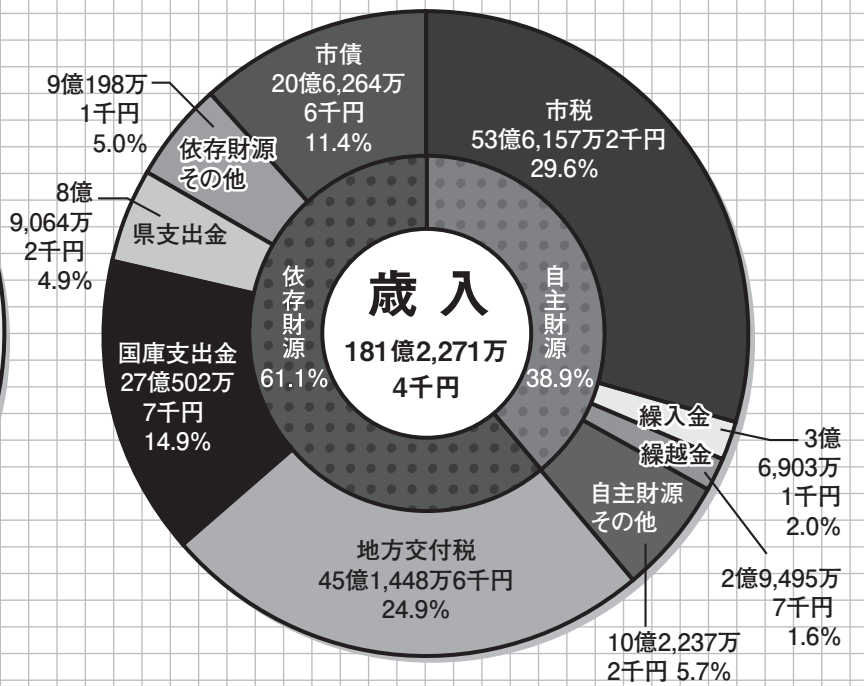


※歳出(性質別)には地域し尿処理施設事業特別会計と住宅新築資金等貸付事業特別会計も含まれています。

## 一般会計 歳出(目的別)



## 一般会計 歳入



# 財政指標

## ① 財政の余裕状況をみる指数

市にどれだけ自由に使えるお金があるかを見る指標に経常収支比率があります。これは毎年決まって入ってくるお金(経常的な収入)が、給与や市債の返済などの毎年決まって支払うお金(経常的な支出)にどれだけ使われているかの割合を示すものです。

経常収支比率  
 = 経常的な支出に使った経常的な収入 ÷ 経常的な収入の総額 × 100%

平成20年度の経常収支比率は91.3%で、前年度に比べ0.4ポイント改善しました。利率の高い市債を繰り上げて返済したことが主な要因です。

## ② 財政力の強さをみる指数

市の財政が豊かであるかどうかを判断する指標に財政力指数があります。これは、市税などの標準的な収入で合理的に行政を行った場合にかかる費用をどれだけまかなえるかを表し、過去3年間の平均数値を使います。この数字が「1」に近いほど財政力が豊かであるといえます。

財政力指数  
 = 基準財政収入額 ÷ 基準財政需要額 (合理的に行政を行うのに必要な額)

平成20年度は0.598%で前年度に比べ0.03ポイント改善しましたが、目標の1には程遠い状況です。

## ③ 借金の借入限度の指標

借金(起債)の返済に充てるお金(元金・利子償還額)が、標準的な収入に対しどれだけの割合があるかをみるものに、起債制限比率があります。この比率が20%以上になると起債の発行が制限されます。

また、公営企業などの借金も加えた実質公債費比率というものがあります。起債も現在は許可制から協議制へと移行しましたが、この実質公債費比率が18%を超えると県知事の許可が必要となり、公債費負担適正化計画を策定することになります。

平成20年度の起債制限比率は6.7%で前年度より0.7ポイントの改善、実質公債費比率は8.8%で前年度より0.6ポイント改善しました。

問い合わせ 市財政課(福間庁舎)  
 ☎ 43・8114

### 津屋崎千軒通り活性化事業

市の観光拠点である津屋崎千軒周辺地域の活性化を図るため、前年度市民ワークショップにより策定した基本計画を基に、観光拠点として「津屋崎千軒なごみ」を建設しました。また、国の登録有形文化財に指定された津屋崎千軒民俗館「藍の家」を観光の重要拠点と位置づけ、藍の家の土地を購入しました。

### 行政経営の推進

厳しい財政状況の中、行政の無駄を減らしてサービスの質を高めた行政経営を目指すため、市が行っている全事務事業を振り返り、点検・評価する事務事業評価を本格導入し、全七百七十事業の評価を実施しました。また、行政評価委員会において、事務事業評価結果や関係資料を基に、市民の目線で外部評価を実施し、事業の改善などに向けた意見をいただきました。

### 古墳公園建設事業

国指定史跡である津屋崎古墳群について、歴史的価値や重要性を再認識し、自然や歴史・文化を満喫できるように古墳公園を整備するため、今年度は基礎資料として古墳周囲の発

### 防災行政無線整備事業

前年度に引き続き、地震、台風、豪雨災害などの緊急事態にいち早く避難や警戒情報を伝えるため、防災行政無線を整備しました。平成19年度に実施した電波伝播調査やシス



▲防災行政無線子局

### 郷づくり推進事業

組織づくりについては、上西郷地区で協議会が設立され、八地区すべてで体制が整い、活動拠点となる事務所についても神興、上西郷地区で整備を行いました。地域駐在職員については、津屋崎地域に試行配置し、郷づくり支援を行いながら拠点での行政サービスの必要性などを検証しました。また、郷づくり推進事業交付金を八地区に交付することで、それぞれが地域の課題解決のための活動に取り組み、地域防災や福祉分野など新たな地域活動が生まれています。

### 市立保育所施設耐震化補強事業

平成19年度に実施した耐震調査結果に基づき、木造の福間・東福間・花見の各保育所について耐震補強工事を実施し、安全で安心な保育環境の形成を図ることができました。

### 地域交通体系事業

平成19年度に策定した「福津市地域交通体系整備計画」に基づき、交通の現状と課題および社会環境の変化への対応を図るため、市内の五路線にふくつミニバスを運行させ、併せて持続可能なルート・仕組みづくりを構築しました。

# 歳出から見る まちづくり

掘調査を実施し、併せて用地購入を行いました。

## 市民一人当たりの使い道

議会費 3,896円	商工費 1,552円
総務費 42,051円	土木費 66,225円
民生費 89,750円	消防費 9,543円
衛生費 37,044円	教育費 29,679円
労働費 5円	災害復旧費 416円
農林水産業費 7,038円	公債費 29,997円

※一般会計歳出(目的別)金額と平成21年3月末人口55,819人から算出

## 平成20年度の主な事業

主な事業	決算額(千円)
郷づくり推進事業	2,570万9千円
コミュニティビジネス事業	25万2千円
住みよいまちづくり推進企画活動補助金	884万8千円
郷育カレッジ講座運営事業	275万2千円
古墳公園建設事業	3,009万8千円
ふくつ自然塾事業	49万4千円
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)推進事業	268万3千円
少人数学級設置事業	839万1千円
小学校給食施設整備事業	3億2,875万9千円
子育て支援センター運営事業	665万5千円
市立保育所運営事業(施設耐震補強事業)	2,486万1千円
防災行政無線整備事業	1億2,854万5千円
障害者自立支援事業	3億8,536万1千円
食育推進事業	305万9千円
男女共同参画推進事業	141万6千円

主な事業	決算額(千円)
西郷川リバーズ事業	3億4,286万1千円
「エコショップ」認定推進事業	11万7千円
地域交通体系事業	3,833万5千円
福間駅東土地区画整理事業	4億2,650万円
JR福間駅自由通路整備事業	4億6,603万円
JR福間駅前広場整備事業	4億4,911万9千円
津屋崎千軒通り活性化事業	2億784万9千円
福祉のまちづくり事業	1,120万5千円
公園リフレッシュ事業	157万5千円
県営ため池整備事業負担金	2,471万7千円
観光基本計画策定事業	230万7千円
福津ブランド推進事業	654万4千円
国際交流事業	128万8千円
行政経営推進事業	82万6千円